

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」

項 目	前回（6年4月判断）	今回（6年7月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	

（注）6年7月判断は、前回6年4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。観光は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項 目	前回（6年4月判断）	今回（6年7月判断）	前回比較
-----	------------	------------	------

個人消費	乗用車販売減少の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	
生産活動	弱い動きとなっている	一進一退の状況にある	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	

設備投資	5年度は減少見込み	6年度は増加見込み	
観光	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	
企業収益	5年度は増益見込み	6年度は減益見込み	
企業の景況感	「下降」超となっている	「上昇」超となっている	
住宅建設	弱い動きとなっている	横ばいの状況にある	
公共事業	前年を上回る	前年を上回る	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している」

スーパー販売は、総菜や冷凍食品などの飲食料品に底堅さがみられ、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、弁当や飲料などの飲食料品の需要が引き続きみられ、前年を上回っている。乗用車販売は、一部メーカーの認証不正による生産停止の影響から、前年を下回っている。ドラッグストア販売は、食料品やスキンケア用品が好調であり、前年を上回っている。百貨店販売は、富裕層及びインバウンド向けの衣料品販売が好調であるなど、前年を上回っている。家電販売は、エアコンの需要が多くみられ、売上げをけん引していることから、前年を上回っている。ホームセンター販売は、夏物家電が好調である一方、主力の園芸用品が前年を下回っており、横ばいとなっている。

(主なヒアリング結果)

- セールでの集客力が高いほか、PB 商品の売行きが好調であるなど、物価上昇による節約志向は引き続きみられる。一方で、「ハレの日」には、やや高価格帯の商品が売れるなど、メリハリのある消費行動もみられる。(スーパー)
- 購入数量に変化はなく、値上げの影響で売上げは増加。昨年はコロナ5 類移行後の販売増があったことを踏まえると、今期の販売動向が悪かったという印象ではない。(コンビニエンスストア)
- 受注数は戻ってきているが、5 月まで生産を停止していた車種も多くあったため、販売台数の減少に大きく影響している。(乗用車販売店)
- 購入数量の減少傾向は続いているものの、極端な買い控えなどはみられず、消費者にも値上げが受け入れられる環境になっている。値上げによる消費マインドの低下はみられず、横ばい。(ドラッグストア)
- 特選ブランドがインバウンド消費の大半を占めているほか、日本人富裕層の消費意欲も非常に旺盛になっている。(百貨店)
- エアコンの販売が旺盛であり、売上げをけん引している。前年に購入を逃した人が早速購入を始めており、既に工事待ち客が発生している。(家電量販店)
- 入学式シーズンやゴールデンウィークといったイベント期間の売上げ、客数ともに前年並みを維持しているなど、消費マインドの落ち込みは引き続き感じていない。(宿泊業、飲食サービス業)

■ 生産活動 「一進一退の状況にある」

生産活動は、一進一退の状況にある。

- 新設した生産ラインの稼働開始に伴い生産量が大幅に増加している。今後の計画では当該ラインの稼働時間を延長する予定のため、生産量はさらに増加となる見通し。(輸送用機械器具)
- 主力のコンクリート 2 次製品は継続的な更新需要があるほか、生コンクリートでは大口案件に係る受注が入ってきている。(窯業・土石製品)
- ホタテは、中国への輸出減少分を東南アジアを中心とした他地域へ輸出することができている。販売促進の効果により国内販売も好調であることから、中国の禁輸の影響はほとんど感じない。(食料品)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

雇用情勢は、人手不足を背景として企業の求人意欲が高い状況にあり、緩やかに持ち直している。

- 最近では、入社数年の若手に限らず、ベテランも年に数人退職者が出る状況になっており、幅広い年齢層で人材の流動化が広がっていると感じる。(建設業)
- 企業が求人を行う際、「未経験可」というフレーズが増えてきている。即戦力が欲しいもののなかなか採用できないため、入社後に教育するという視点に変わってきており、企業の採用の間口は広がっている。(職業紹介・労働者派遣業)
- 手荷物預かりの機械化、オンラインチェックインといった業務自動化の取組を行っており、地上職の必要人員を減らせている。また、賃上げだけでなく働き方の多様化に対応して、休暇制度を見直すなど働きやすい環境づくりに取り組んでおり、離職率は低下している。(運輸業、郵便業)

■ 設備投資 「6年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年4-6月期

- 製造業では、「食料品」などが増加していることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、「小売業」などが増加していることから、全体では増加見込みとなっている。

- 主なものは新規出店に係る投資であるが、他に節電のための冷凍ケースの更新や、人手不足対策のための、セルフレジの拡充などを予定している。(小売業)
- コロナ禍においては、先行きの不透明感から車両の更新台数を抑制し先送りしていたが、コロナが明け、正常な経営状況に戻りつつあるため、まとめて更新を行う予定。(運輸業、郵便業)
- 維持更新は抑制することなく着実に行うが、物価高に伴い投資コストが上昇したことから、負担感は増している。(鉄鋼業)

■ 観光 「緩やかに持ち直している」

- 観光は、来道客数は前年をやや下回っているものの、外国人入国者数は前年を上回っており、足下の旅行需要も堅調に推移していることから、緩やかに持ち直している。

- 大型連休は、物価高の影響で近場を選ぶ方が多かったことに加え、日並びも悪く、例年に比べるとあまり良くなかった。しかし、セールを行うと大きな反響が得られることから、北海道への旅行需要自体は底堅いと感じている。(旅行業)
- インバウンドは、前年同月比でみると増加傾向にある。宿泊価格が上がっていても、宿泊者数が落ちにくくなっており、円安の影響があると感じる。(宿泊業、飲食サービス業)
- 夏休みの予約数は、需要の盛り上がりがあり、前年同期を上回っている。(運輸業、郵便業)

■ 企業収益 「6年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年4-6月期

- 製造業では、「輸送用機械器具」などが増益となっていることから、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、「運輸業、郵便業」が赤字拡大となっていることなどから、全体では減益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「「上昇」超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年4-6月期

- 企業の景況感を当局の法人企業景気予測調査(6年4-6月期)でみると、企業の景況判断BSIは、全産業では「上昇」超となっている。
- なお、先行きは、「上昇」超で推移する見通しとなっている。

■ 住宅建設 「横ばいの状況にある」

- 住宅建設は、持家、分譲住宅は前年を下回っているものの、貸家は前年を上回っており、横ばいの状況にある。

■ 公共事業 「前年を上回る」

- 公共事業を前払金保証請負金額でみると、第1四半期は、国、北海道が前年を下回っているものの、独立行政法人等、市町村が前年を上回っており、全体では前年を上回っている。

■ 金融 「貸出金残高は前年を下回る」

■ 企業倒産 「前年を上回る」

■ 消費者物価 「前年を上回る」